

国際セミナー「古代ユーラシアにおける乳製品の加工と利用」開催報告

平成30年12月8日に国立民族学博物館において、国際シンポジウム「古代ユーラシアにおける乳製品の加工と利用——考古化学によるミルク研究の最先端と北東アジア地域の位置づけ」を、奈良文化財研究所『日本古代の乳製品加工に関する考古化学的証拠の探求』プロジェクト（日本学術振興会 科学研究費補助金 挑戦的研究（萌芽）、代表：庄田慎矢）との共催により開催いたしました。館内構成員4名、その他館内研究者4名、総研大学院生2名、一般55名の計65名が参加いたしました。

発掘された人骨の歯石の分析を通して乳製品が摂取されていたことが示され、古代のモンゴル高原ではウマに先んじて反芻動物の乳が使われていたことが示されました。また、古代の乳製品の加工法についても紹介されました。

みづか 国際シンポジウム 人間文化研究機構 ネットワーク型基幹研究プロジェクト地域研究推進事業
「北東アジア地域研究」 国立民族学博物館拠点



考古化学による
ミルク研究の最先端と
北東アジア地域の
位置づけ

古代ユーラシア における 乳製品の加工 と利用

日時 2018年12月8日(土)
13:30~17:00

場所 国立民族学博物館
第4セミナー室(2階)
一般公開(参加費無料)

[事前申込] 不要
[定員] 50名 **同時通訳(日英)**

講演

-  **ジェシカ・ヘンディ** マックスプランク人類学研究所 グループリーダー
明らかになった古代アナトリアにおける乳加工の証拠
-  **ペニー・ビッケル** ヨーク大学考古学 専任講師
ヨーロッパの最初の農民はミルクをのんだか？
新しい考古学の方法が乳加工の起源の研究に
与えたインパクト
-  **シェヴァン・ウィルキン** マックスプランク人類学研究所 研究員
ショットガンプロテオミクスで探る
古代モンゴルの乳製品の加工

主催／奈良文化財研究所「日本古代の乳製品加工に関する考古化学的証拠の探求」プロジェクト
(日本学術振興会 科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽))(代表:庄田慎矢)、
人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト
「北東アジア地域研究」国立民族学博物館拠点(代表:池谷和信)
協賛／一般社団法人 Jミルク

国立民族学博物館 National Museum of Ethnology 科研費 2018-2021
人間文化研究機構 基幹研究プロジェクト +milk 一般社団法人 Jミルク Japan Dairy Association U-milk